

この報告書は、広島工業大学学生自主企画プログラム「HITチャレンジ制度」より、助成金をいただき、行われています。自然環境問題はテレビ、雑誌などの様々な場面で取り上げられています。これらの問題を身近な問題としてとらえ、出来ることから行動していこうという企画です。

[はじめに]

私たちの暮らす地域には変化に富んだ自然景観が存在しており、多様な生態系によって構成され、森川海などの環境に適応した生態環境が形成されてきました。しかし、開発や耕作放棄などによる、地域の生物は大きな環境変化の中で、在来生物の減少や絶滅、侵略的外来種の侵入など生物多様性の低下につながる問題が起こっています。私たちの生活の多くをすくなく広島工業大学の周辺地域の自然環境に対して①気づくこと、②知ること、③伝えること、④長く見つめていくことが私たちの目標です。

● 対象地域

広島市佐伯区を流れる八幡川、廿日市市宮島を対象とした「環境活動」についての報告を行います。広島工業大学との位置関係は右図を参照。



図1 対象とした地域

[八幡川での活動]

八幡川では人工的多自然型川づくりの一つでもある、ワンド（川とつながる、池のように立った場所の名前）を造成します。造成前後の生物調査の結果の比較を行うことで「ワンド」を作ることによる河川の生物相の変化を観察します。

● ワンドの造成

平成20年10月広島県広島市の二級河川八幡川において、広島県広島地域事務所建設局管理課の許可を得たうえで、流入口の異なる二つのワンドと川とつながりのないプールを作成しました。護岸はその場で採取した石を利用、水際にはオギ、ツルヨシを同流域で採取・移植することで、水域と陸域の連続性を確保しています。



ワンド1号



ワンド2号



ワンド3号

● ワンド作成風景



位置決め



穴掘り



石積



石積



川と繋げる



完成



看板設置

[宮島での活動]

広島県廿日市市宮島の上室浜、腰細浦、革篋崎の3地点における沿岸域モニタリングを行いました。日本ミクニヤ(株)、広島工業大学環境学部上嶋英機教授の協力のもと、「沿岸域モニタリング手法」を利用し、沿岸域の付着生物、植生、漂着ごみ等の調査を行いました。

● 調査日程

夏季：平成21年8月20日(木)

秋季：平成21年11月1日(日)

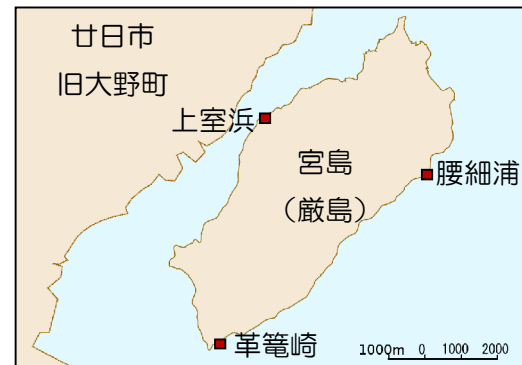
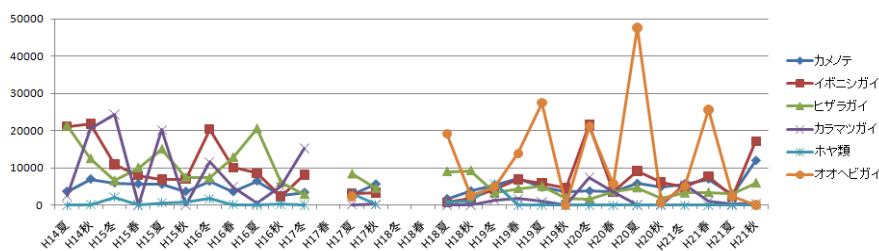


図2 宮島モニタリング地点地図

● モニタリングの手法

モニタリング調査は、「マッピング手法を用いた沿岸域生態系モニタリング技術」を利用しました。潮間帯における生物の観測を行い、対象沿岸域の潮間帯付近に生息している動植物から、観察指標となり得る生物を数種選定し、多人数で効率的に、広範囲のデータを取得します。調査技術は易しく、学生や地域住民等、専門知識を持たない人でも行えることが特徴です。ここでは、平成14年夏から平成21年秋までのモニタリング継続データを紹介します。



経年変化平成14年夏～21年秋まで



調査風景